

令和4年(2022年)10月7日(金曜日)

世界かんがい遺産登録

先進的技術を評価

磐田 沼津

寺谷用水

香貫用水

磐田市の寺谷用水と沼津市の香貫用水を含む国内3施設が6日、国際かんがい排水委員会（ICID、本部インド）が建設から100年以上経過し、歴史的価値の高い利水施設を登録する「世界かんがい施設遺産」に選ばれた。同日、オーストラリアで開かれたICID国際執行理事会で決定した。県内では深良用水（裾野市）源兵衛川（三島市）に続き、計4件となる。

寺谷用水は、徳川家康が整備を命じ、1590年に完成した全長12キロの水路。

天竜川の水を引き込み、約2千畝の水田耕地を潤した。改修を経て、今も市内の水田など約1500畝に水を供給している。

堤防整備に合わせ、取水用の暗渠（あんきよ）を設ける手法は、天竜川の治水と利水を一体的に行う革新的な技術だった。江戸時代に多数のかんがい事業に活用されたという。

登録申請した寺谷用水土地改良区の伊藤英明副理事長は「誇りに思いつつ同時に、大きな役割と責任を感じる。市、県、国の宝である寺谷用水を、地域一体となって守り育てていきたい」と語った。

香貫用水は江戸時代初期の1629年ごろ、地域の



▶徳川家康の命令で整備された寺谷用水。改修を経て今も地域の水田に水を供給している。5日、磐田市寺谷

▶世界かんがい施設遺産に登録された香貫用水。6日午後、沼津市本郷町

有力者植田内膳が狩野川から取水する全長5キロの水路を建設し、水不足に悩まされた現在の沼津市香貫地区を潤した。地域住民には「内膳堀」の愛称で親しまれている。現在の総延長は19・85キロで、現役の農業用水として約7畝に水を供給する他、排水路や環境用水として利用されている。

建設時はセメントが普及していないため、炉灰を混ぜ合わせた土を水路に敷いて水の染み込みを防ぐなど、当時としては先進的な工法で造られた。

登録申請した沼津市の頼重秀一市長は「大変喜ばしく、誇らしい。私財を投じて建設した植田内膳翁の功績を語り継ぎ、用水の保全に努めたい」とコメントした。

（東部総局・尾藤旭、磐田支局・八木敬介）